

---

## 精神疾患のある患者の在宅血液透析(HHD)導入と在宅支援への取り組み

---

医療法人衆和会 長崎腎病院

○吉田衣里子 白井美千代 丸山祐子 藤原久子 船越 哲

### 【背景】

うつ病の我が国の有病率は2-4%であるのに対し、透析患者では15-60%という報告もあり、注意深い対応が必要である。今回は、重度で多彩な精神疾患に罹患した患者の、在宅血液透析導入から移行の経過中での看護師の役割について経験したので報告する。

### 【対象】

48歳代、女性、独身。14歳頃より摂食障害、うつ病の診断を受けた。腎不全が徐々に悪化したものの、被害妄想や自殺企図もあり、当初血液透析の導入と維持は極めて困難との判断であった。母親は非常に熱心であり、患者の心不全症状が悪化したことを契機に、在宅透析を目指す方向で当院に転入となった。

### 【結果】

個別の教育プランの見直しや対応スタッフの限定など、患者に合わせ精神的負担を軽減させ、在宅透析移行が実現した。訪問看護も介入し、移行後の在宅透析を支援している。

### 【考察】

在宅透析への移行は実現したが、本人の精神状態如何で継続が困難なこともあり、医療ケアチームだけでなく公的サービスとの協働を早期に整え準備していく必要があると考える。